

日総工産株式会社

【2020年3月期 第3四半期決算説明会（機関投資家・アナリスト向け）主な質疑応答】

2020年2月10日開催

当内容は全ての質疑応答の内容を記録したものではありません。また、ご理解いただきやすいように一部加筆、修正をしております。

Q1: 今期の売上高を57億円下方修正しましたが、そのうち電子部品および自動車の影響はどのくらいでしたか。

A1: 今期の当初計画では、自動車が前半、電子部品が後半伸びる見込みでしたが、結果としてはその通りにはいかず、電子部品は昨対比6%減少いたしました。イメージとしては、電子部品は10%程度ぐらい当初計画していたより下振れしております。また、自動車については、期末に向けても、ある程度のトレンドで推移すると見込んでおりましたが、計画通りに伸ばすことができず、自動車全体としては計画より若干下振れる結果となっております。

Q2: 今期の配当予想は1株あたり25円を据え置かれたのですが、今後については、配当性向30%が基本なのですか、それとも25円を維持しようという考えなのですか。

A2: 配当性向30%以上ということは一つの目安として持っておりますが、この30%にとらわれずに、安定的に増配していくことを目指しております。来期につきましては、現時点では今期予想の25円を下回ることは想定しておりません。

Q3: 来期の方向感を教えてください。

A3: 来期については、横ばいではなく、多少なりとも増加傾向と見込んでおります。また今後に向け、これから新しい打ち手を打っていきますが、その効果が現れてくるのはまだ先であると考えております。

Q4: 説明資料P20にある生産技術領域について、もう少し詳しく教えてください。

A4: 現在、ものをつくるのは人から機械が中心となる時代にすでになり始めておりますが、この機械の稼働率が上がれば、生産性が上がり、利益となります。この生産性を上げるために、メーカーには生産技術の方がおりますが、メーカーでは外部労働力の活用が増えたことで、生産技術の層が少し薄くなってきた傾向がございます。そこで、メーカーの方に聞きましたところ、生産技術を持った企業であれば、新たな領域での取引は可能であると回答を頂き、当社といたしましては、お客様との関係をより深めることにもなりますので、人材育成に時間はかかりますが、中長期の成長に向けて、強化する領域として生産技術領域の検討を進めております。

Q5: 外国人のエンジニアに関して、何か動きはあるか教えてください。

A5: 中長期では、日本には少ないソフト系の人材などは、アジアの国々から来て頂くことが増えると予想しており、当社では、まだ市場調査の段階ですが、少しずつアジア各国の検討を進めております。

Q6: 2020年3月期の見込みでは、第4四半期の売上高が第3四半期に対し、若干減っていますが、営業利益は第3四半期と同じくらいとなっています。これはコストを減らしたのか、内容について教えてください。

A6: 第4四半期では、現状を詳しく分析し、顧客からのバックオーダーとのバランスを見て募集費のロスが出ないように進めております。また、新型コロナウイルスの影響も視野に入れ 販管費のコントロールを行っております。

Q7: おそらく来期をにらんで、人員への先行投資を行っていると思います。来期に電子部品企業の稼働が上がれば、トップラインも伸びると思いますが、もし、来期の第1四半期あたりまで稼働が戻らなかったとき、この人材への投資は引き続き増やしていくのか、考えを教えてください

A7: 今は、お客様の状況を見ながら積極的に育成、採用、登用への投資を行っておりますが、もし当社が想定していたよりさらに回復時期が後ろにずれるようであれば、若干コントロールせざるを得ないと考えております。ただ、当社には、アカウント企業以外にも次期アカウント候補といった取引先企業もございますので、そこへの配属を進めるなど工夫をしながら、引き続き投資を行い、利益が得られるようにコントロールをしております。

以上